



1 Year to Go! 東京2020オリンピック開催まであと1年



聖火リレーにまつわるエトセトラ

ギリシャ・オリンピアの太陽光で採火された炎を、ギリシャ国内と開催国内でリレーによって開会式までつなげる聖火リレー。オリンピックのシンボルでもある聖火リレーが東京2020オリンピックではどのようなルートを通るのか、そして愛媛県ではいつ行われるのかなど、聖火リレーについてのあれこれを調べてみました。

TOKYO 2020

■聖火リレーの歴史

古代オリンピックが行なわれていたギリシャでは火は神聖なものとされており、オリンピックの開催期間は、祭壇に灯された火を絶やすことなく燃やし続け神を称えていたと言われています。オリンピックに初めて聖火台が登場したのは、1928年にアムステルダムで開催された第9回大会でした。しかしこの当時は聖火リレーは行なわれておらず、ドイツのスポーツ学者で大会組織委員会事務総長を務めたカール・ディームの発案により、1936年にベルリンで開催された第11回大会から聖火リレーが始まりました。聖火リレーは古代より行われていたと思いきや、意外と近代オリンピックから始まった儀式なんですね。

■東京2020オリンピック聖火リレーのルート

東京2020聖火リレーのコンセプトは、「Hope Lights Our Way (希望の道を、つなごう)」です。支えあい、認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らしたという意味が込められています。聖火リレーは2020年3月26日に福島県からスタートし、以降時計回りに全国を回り、121日間をかけて日本全国47都道府県を巡ります。7月10日に東京へ到着し、2週間かけて開会式会場となる新国立競技場へ運ばれます。震災から10年目の被災地も訪れることになり、新しい時代の希望のオリンピック聖火リレーとして、復興に力を尽くされている方々にも、元気や力を届けていきます。また、震災当時世界中から寄せられた支援や励ましに対し、震災から10年目の日本の姿を感謝の気持ちとともに発信し、困難を乗り越える人々の力・不屈の精神を、しっかりと伝えていきます。



■愛媛県の聖火リレールート

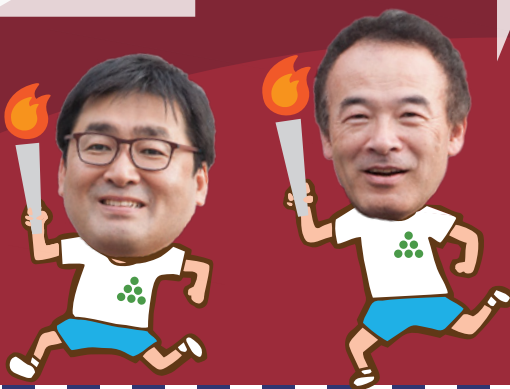
愛媛県の聖火リレーは、4月22日、23日の2日間にわたって行われます。高知県から運ばれた聖火は4月22日に四国中央市を出発、県東部～中部を巡りながら松山市に到着し1日目を終了します。2日目は砥部町から出発したあと、県南部でリレーを実施し八幡浜市で終了、その後大分県に運ばれます。県内では松山城や内子座、愛南町の宇和海展望タワーや愛媛県唯一の離島自治体である上島町を含め、全20の市町を聖火が訪れる予定です。

専務理事 木原信吾

私の人生史上2回目の東京オリンピックです。オリンピックの入場券は外れましたので聖火ランナーこそはと願っていますが、たとえ選ばれまいと、このオリンピックが日本の新しい時代の助走となることを祈り、応援します。

理事長 永井 康徳

走るのあまり好きではないですが、もし選ばれたら患者様やご家族様に喜んでもらえるように、モチベーションで頑張ります！



聖火ランナー募集中!!

7月1日より東京2020オリンピック聖火リレーの聖火ランナーの募集の受付が開始となりました。各市町で1~3名募集しており、1日あたりの聖火ランナー数は、おおむね80名から90名を目安に調整中のようです。

1名あたりの走行距離は約200m、走行時間は約2分間となります。選考方法は、応募者の中から各市町にてランナー候補者を選考し、県実行委員会による承認を経て、東京2020組織委員会が最終的に当選者を決定します。

2019年12月以降に当選者が発表されるようです。一生に一度経験できるかどうかの自国開催ということで、ゆうの森もオリンピックを盛り上げたい!という思いから、ゆうの森を代表して理事長の永井と専務理事の木原が聖火ランナーに応募します!果たして聖火ランナーに選ばれるのか!?合否はまたゆうの森新聞で発表したいと思います。乞うご期待!